

H.C.R. 2021 ビジュアルデザイン決定!



H.C.R. 2021のビジュアルデザインが決定しました!

本年は、写真家林明輝氏による“長野県小谷村のブナの巨樹”の写真をデザインに採用しました。生き生きとした緑が映え、自然の壮大な生命力や生き抜く力が感じられる作品です!

このビジュアルデザインは、H.C.R. 2021の告知ポスターやリーフレット、さらに10月より開催のWeb展のデザインなどに用い、展示会開催を大きくアピールします。

◆作品コメント 林明輝氏 (写真家)

長野県小谷村が村制60周年を迎えた。

この地の自然風景に魅了され、四半世紀以上訪れている。1800メートルに位置する梅池自然園のミズバショウの群落や、北アルプス最大の池といわれる風吹大池などが有名だが、今回は魅力あるブナの巨樹を訪れた。根本のあたりで幹が大きく5本に分かれていて、見る者を圧倒する。おそらく画面手前にもう1本の幹があったのだろうが、雷か強風の影響で朽ちてしまったものと思われる。しかし、そのダメージをかばうかのように、周囲の幹が力強く手を取り合って成長していく姿に、今我々を取り巻く福祉の環境を重ね合わせてみる。超高齢化社会を迎え、我々一人一人ができることを自問自答し、老若男女が手を取り合って福祉の輪を広げ、この社会を力強く乗り越えていこうではないか。

この巨大ブナの息吹が、そのように語っているような気がしてならない。自然を見つめることによって、見えてくる未来の姿がある。

プロフィール

1969年神奈川県生まれ。日本の絶景を写真の力で世に問うことをモットーとし、第一線で作品発表を続ける写真家。

2005年、小学館の写真集「森の瞬間」で、国際野生写真協会主催のネイチャーフォトブックオブザイヤー最高賞を受賞。1998年の写真集『あまかざり』以来、写真集『故郷 OTARI 小さな谷の物語』までの来場者数は15万人を超える。

ドローン写真の第一人者として、本邦初のドローン写真集『空飛ぶ写真機』(平凡社2015年)を出版。最先端の技術を駆使し、デジカメの撮影から、RAW現像、プリントまでのノウハウを教授するプロフェッショナルとしても知られる。

2019年、三脚ブランドメーカー LEOFOTO社より、山岳・風景写真に特化したLS284C Linモデルをプロデュース。日本写真家協会会員。

H.C.R. 2021における新型コロナウイルス感染症対策について

青海展示棟へご来場の皆様へのお願い

来場の際には事前に体調を確認し、発熱や体調不良がある場合は来場をご遠慮ください

下記に該当する方は、本展示会には入場できません

- ・ 37.5℃以上の発熱がある方や、体調がすぐれない方 (味覚・嗅覚異常を含む)
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある方
- ・ 過去14日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航、並びに当該在住者との濃厚接触がある方



入場事前登録のご利用をお願いします。(9月27日10時より受付開始)

※1頁に掲載の入場登録フローをご参照ください。



会場内の食事禁止



入場に際し「マスクの着用、検温、手指消毒」が必須となります。

※障害のある方や病気などのご事情によりマスク等の着用が困難な方は、受付でお申し出をお願いします。



厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録・インストールをお願いします。

iPhone



Android



主催者・出展社の主な取り組み

●最大収容者数の設定の遵守と東京ビッグサイトとの事前確認 (来場者数を常時カウントし、一定数を超えた場合は入場者数や入場制限の実施) ●事前の来場登録による分散来場の実施 (来訪日時の調整、管理) ●来場者へのマスク着用の周知徹底 ●会場入口でのサーモグラフィ等による検温、手指消毒の実施 ●会場内の混雑状況をWebサイトで発信し、密を避けての来場を呼びかけ ●スタッフ・関係者全員のマスク着用、定期的な検温、頻繁な手洗い、手指消毒の徹底 ●受付や商談時の飛沫感染予防対策の実施 (パーティション設置等) ●会場内および入場待機スペースでの対人距離確保のための造作 (会場内通路の進行方向表示と、待機スペースでの間隔確保用足元表示等) ●会場の設備、備品の定期的な清掃・消毒 ●会場内の常時換気 ●会場内の食事禁止 ●セミナー会場や商談スペース、休憩スペース等の席数制限 (フィジカルディスタンスの確保) ●出展社へのブース内出展製品の定期的な消毒の依頼 ●コロナ罹患が疑われる者が発生した場合の、東京ビッグサイト指定による管理棟 隔離用救護室 (一時待機場所) の確保 (一般の急病人とは別室対応) と必要な対応 等